

⑧ 平成29年度跡津川上流砂防堰堤工事における安全対策について

坂本土木（株） 平成29年度跡津川上流砂防堰堤工事

やまぐち こうじ

工期 自 平成29年 8月 4日 現場代理人 ○山口 幸治

至 平成30年 3月 30日 主任技術者 清水 浩二

【キーワード：第三者事故、重機作業】

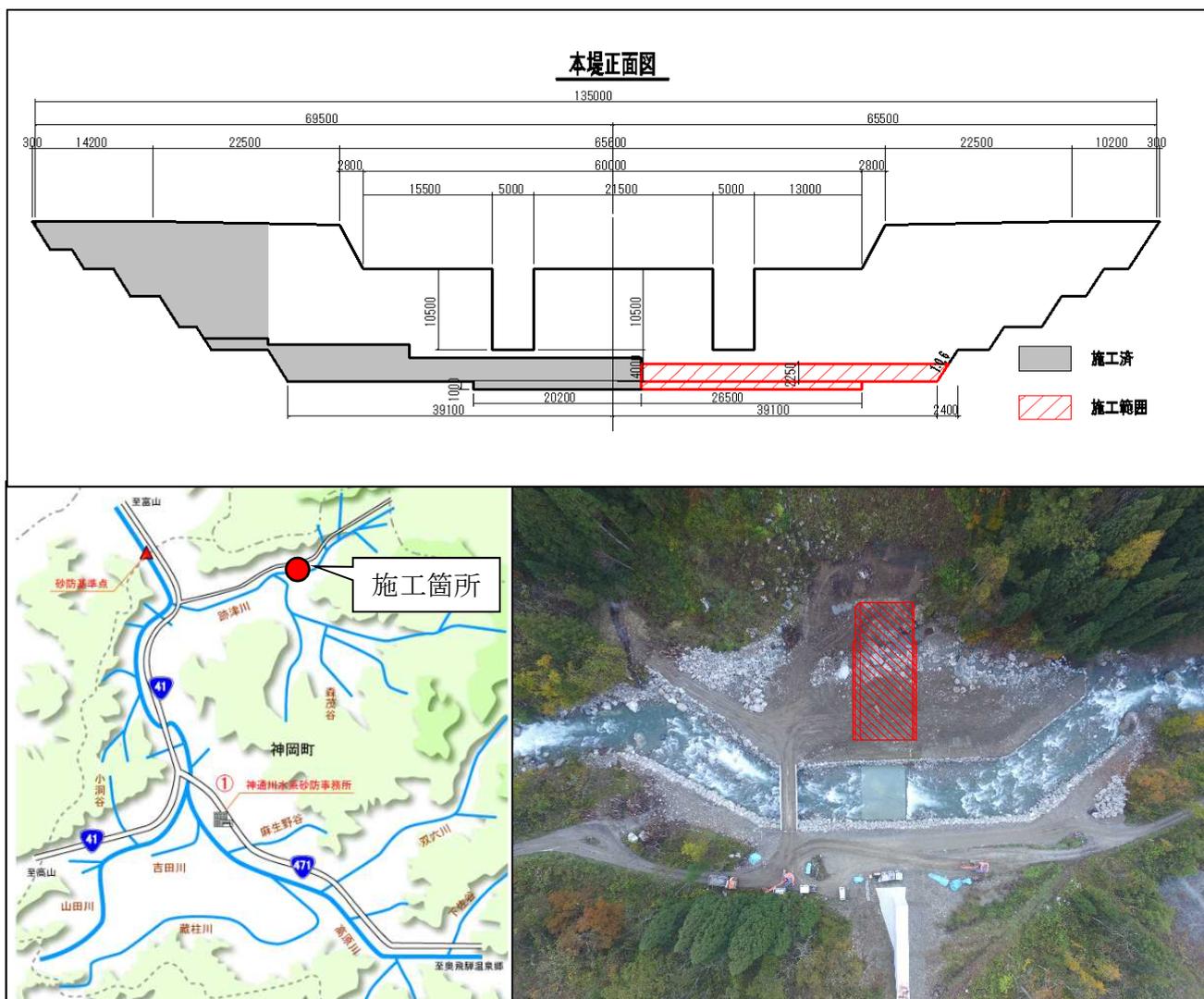


1. はじめに

本工事の施工箇所は飛騨市神岡町跡津川地先であり、跡津川断層による深層崩壊の発生のある恐れのある溪流となっています。そのため、下流域に生活する人々や施設等を土砂災害から守る砂防堰堤を建設する工事です。

本工事は、現在施工中であるため本論文作成時までに実施した安全対策について報告します。

2. 工事概要：砂防堰堤 1式・砂防土工 1式、コンクリート堰堤工 1式、仮設工 1式



管理道路の道路維持補修

【実施状況】



4. 現場内における第三者災害防止、盗難防止対策

4.1 課題

跡津川は溪流釣りの方が県内外からたくさん訪れる場所です。施工箇所付近を通行して、釣りや山菜を取りに入るため、第三者への安全確保が課題となった。また、隣接工事により、他工事業者の出入りが頻繁にあるため、管理道路と工事範囲の区分けや現場内での盗難・犯罪の対策も課題となった。

4.2 実施した対策

・現場内は安全施設等で立入禁止措置を行っているが、現場場内を誤って入る可能性があるため、人の動きに対して反応し音声にて危険を知らせる安全器具を取付、音声ガイダンスにより危険を知らせ、第三者が現場場内に立入らない対策を行った。

【実施状況】



・目で見える安全施設と耳で聞く人感音声センサーの併設により、目と耳から危険だと感じ取ることにより二重に効果があり、第三者への災害防止対策となった。

【実施状況】



・現場事務所や資材倉庫には人感センサーライト、監視カメラ(ダミー)を設置することにより、盗難や犯罪を未然に防ぐことができた。

【実施状況】



5. 重機災害防止に対する取組み

5.1 課題

仮設工の作業時は重機作業が主になりました。仮設構造物(仮締切、巨石積)の進捗に応じて、仮締切内で作業する重機からの死角も増加し、接触、はさまれ等に対する重機災害防止が課題となった。

5.2 実施した対策

- ・作業計画書を作成し重機作業位置、安全通路などを日々のKY時、全員で確認。
- ・バックモニター搭載型のバックホウを使用し、作業時はモニターの常時表示とした。
- ・バックホウの作業半径を現場にて実測による確認を行った。
- ・仮締切は広範囲になるので、近道行為などを防止するため、鉄ピン・トラロープにて立入禁止の明示を行った。以上により、接触等も無く安全に作業が行えました。

【実施状況】



6. おわりに

今後は堰堤部の施工が本格的になり、クレーン災害や転落・墜落災害防止にも配慮する必要があります。特にこの二点は重大災害につながり易いため、安全設備面の強化を行いたいと思います。また、冬期の厳しい環境の中での作業が続きます。日々の打合せの中で現場の意見を取り入れ改善しながら安全対策につなげていきたいです。

最後に、ご協力をいただいた、発注者、連絡会、地域の皆様方に感謝申し上げます。